

地域自治組織について 中間報告される “公民館”をどうする？



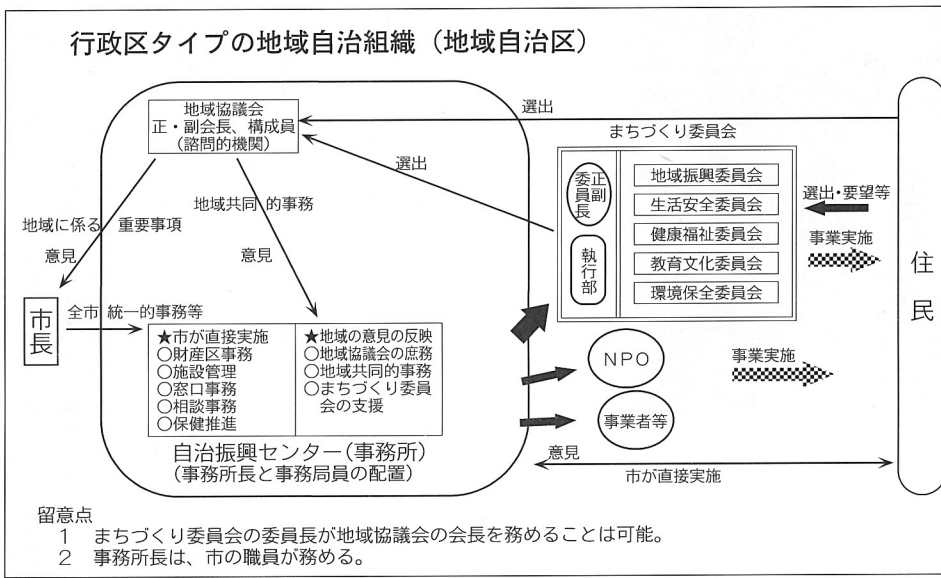
発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,896人
男子 3,383人
女子 3,513人
世帯数 2,163戸
(16年2月末現在)

去る二月十八日に開催された飯田市自治協議会連合会主催の市政懇談会で、市が導入を検討している「地域自治組織」の中間報告がありました。これは、従来の自治会などに替わる新たな住民自治の仕組みで、公民館もこの組織に含まれることが提案されています。私たち住民全てに関わる大きな問題です。今後、この報告内容について十分検討し、私たち住民自ら議論を積み上げ、地域自治組織のあり方を十分検討し、導入する場合には、真に竜丘の地域のために必要な制度とする必要があります。

中間報告の要旨

平成十四年十一月、南信州広域連合が一郡一市構想と併せ、今回の報告の基本となる地域自治政府(現では「政府」から「組織」へ変更)の構想を提案し、市では十五年一月から各地区で説明会を開催した。その後、市長は「合併しない場合でも地域自治組織を導入する」と表明した。八月には、喬木、上、南信濃の三村からの合併協議申し入れに関する市政懇談会が開かれ、その際に地域自治組織についても意見交換された。



今年二月には、この制度の法的な裏付けとなる地方自治法の改正案の概要が明らかになり、これに併せて市では中間報告を行った。●地域自治組織導入の趣旨とされるもの
①住民自治を重視する。
②住民自治を強化し、住民に身近なところで住民に身近な事務を住民の意向を踏まえて効果的に処理する。
③個性豊かで魅力ある地域づくりを推進する。
④可能なことは地域の判断と責任において行い、不可能なことは適切な負担に基づき行政が行う。
⑤各種団体を再編し、総合的な地域づくりを推進する。
⑥スリムで効率的な行政運営を実現する。

「事務所」である。地域協議会は、住民参加と多様な意見の調整の場と記されている。また、市長や事務局長へ住民の意見を述べる役割がある。この構成員は住民の投票などの結果を尊重して市長が選任することが基本とされている。人数は竜丘の場合、人口規模から十七人以上が目安になるようである。事務所は、長を支所長として協議会の意見を取り入れて事務を執行するとされている。

●地域自治組織の仕事
一、地域共同の事務
一、施設等の維持管理、地域福祉、環境保全、防火・防犯・防災、教育・文化・スポーツ、地域振興・普及啓発などが例示されている。
二、市の業務の一部
防犯灯やリサイクルステーションの管理、地域活動団体への補助、広報の配布、児童クラブの運営など。

●まちづくり委員会
地域自治組織の事業を実施する自主的な地域団体として「まちづくり委員会」を設置するとされている。これは従来の各種団体を再編成するもので、正副委員長と執行部を置き、また、原則として地域振興委員会、生活安全委員会、健康福祉委員会、教育文化委員会、環境保全委員会の五委員会が構成されるとのことである。執行部は「地域協議会」の構成員を兼ねることも想定されている。全体として、自治会や公民館と防火防犯、安協、衛生組合、社協などの各種団体を統合再編したものといえよう。

●支所、公民館を統合
事務所は、現在の支所と公民館を統合した「自治振興センター」に置くこととされている。つまり「公民館」は独立した組織・施設ではなく、地域自治組織の事務所とまちづくり委員会の活動の場となる。

●社会教育の上の問題
今回の地域自治組織は、公民館活動に対して、数多くの問題点がありますが、大きくは次の二点があげられます。
まず一点目は、公民館の四つの原則の一つである機関自立の原則が消滅していることである。
現在館長には、地域で教育に精通した方が任命されています。主事は毎年数名が文部科学省の研修を受けています。社会教育にはその道の専門性が必要とされているからです。
以上二点の点がなくなれば、今までの公民館活動を維持

●まちづくり委員会
地域自治組織の事業を実施する自主的な地域団体として「まちづくり委員会」を設置するとされている。これは従来の各種団体を再編成するもので、正副委員長と執行部を置き、また、原則として地域振興委員会、生活安全委員会、健康福祉委員会、教育文化委員会、環境保全委員会の五委員会が構成されるとのことである。執行部は「地域協議会」の構成員を兼ねることも想定されている。全体として、自治会や公民館と防火防犯、安協、衛生組合、社協などの各種団体を統合再編したものといえよう。

●社会教育の上の問題
今回の地域自治組織は、公民館活動に対して、数多くの問題点がありますが、大きくは次の二点があげられます。
まず一点目は、公民館の四つの原則の一つである機関自立の原則が消滅していることである。
現在館長には、地域で教育に精通した方が任命されています。主事は毎年数名が文部科学省の研修を受けています。社会教育にはその道の専門性が必要とされているからです。
以上二点の点がなくなれば、今までの公民館活動を維持

●まちづくり委員会
地域自治組織の事業を実施する自主的な地域団体として「まちづくり委員会」を設置するとされている。これは従来の各種団体を再編成するもので、正副委員長と執行部を置き、また、原則として地域振興委員会、生活安全委員会、健康福祉委員会、教育文化委員会、環境保全委員会の五委員会が構成されるとのことである。執行部は「地域協議会」の構成員を兼ねることも想定されている。全体として、自治会や公民館と防火防犯、安協、衛生組合、社協などの各種団体を統合再編したものといえよう。

●社会教育の上の問題
今回の地域自治組織は、公民館活動に対して、数多くの問題点がありますが、大きくは次の二点があげられます。
まず一点目は、公民館の四つの原則の一つである機関自立の原則が消滅していることである。
現在館長には、地域で教育に精通した方が任命されています。主事は毎年数名が文部科学省の研修を受けています。社会教育にはその道の専門性が必要とされているからです。
以上二点の点がなくなれば、今までの公民館活動を維持

●まちづくり委員会
地域自治組織の事業を実施する自主的な地域団体として「まちづくり委員会」を設置するとされている。これは従来の各種団体を再編成するもので、正副委員長と執行部を置き、また、原則として地域振興委員会、生活安全委員会、健康福祉委員会、教育文化委員会、環境保全委員会の五委員会が構成されるとのことである。執行部は「地域協議会」の構成員を兼ねることも想定されている。全体として、自治会や公民館と防火防犯、安協、衛生組合、社協などの各種団体を統合再編したものといえよう。

活動の原点を見直す 飯田市公民館大会

二月十五日、第四十一回飯田市公民館大会が、市公民館において「今、心を結ぶ」というテーマで、市民の参加と多様な意見の調整の場と記されている。また、市長や事務局長へ住民の意見を述べる役割がある。この構成員は住民の投票などの結果を尊重して市長が選任することが基本とされている。人数は竜丘の場合、人口規模から十七人以上が目安になるようである。事務所は、長を支所長として協議会の意見を取り入れて事務を執行するとされている。



飯田市公民館大会の様子

的に実施され、地域発展に大きな貢献をしています。公民館活動の基盤となっている「分館活動」もセミナー、人形劇、文化祭、祭り、講演会など多様な事業を行い、住民の交流親睦を図り、地域づくりに役割を果たしてきています。

江戸の文化から学ぶ 竜丘市民大学講座第四講

二月十一日、竜丘公民館大ホールにて、竜丘市民大学講座第四講が五十名余の参加者をもって開催されました。今回は環境文化都市・飯田市にふさわしい内容でした。

今年度、環境保全課が各地域の環境について積極的に活動を展開しています。今回の講座はこれを受け、講師に、法政大学社会学部教授の田中優子先生をお招きし、江戸時代の人々の生活と現代の生活を比べながら、身近な環境について学びました。

田中先生は、主に江戸時代の文学、美術、経済などや当時の日本とアジアの関わりを中心に、幅広く研究



第25回竜丘地区市民大学講座
江戸のくらしに学ぶ現代
下肥問屋「名称」によって回収され、農作物の肥料に売買されていたとのことです。

一年間を振り返って 文化・体育委員会

文化委員長

伊原 広隆

今年度も地域の方々の、積極的な参加、協力のおかげで、すべての事業を無事終えることができました。改めて感謝申し上げます。

伝統ある市民大学講座も第二十五回を数えましたが、十五年度は地域、社会の伝統や文化にとどまらず、天文や地質、科学に焦点を当てたり、物あまりの現代社会が抱えている環境、省エネやリサイクルを江戸の庶

捨てたりするのが当たり前。リサイクル活動も盛んにはなっていますが、自然に戻すところまでは到達していないと思います。環境問題は、地球温暖化など人類全体の課題です。今回の講座を通して、先人の知恵を学び、家庭、地域で今以上にリサイクルを盛んにしていくことが大切だと思いを新たにさせられました。

教科書で学ぶことのできない貴重な時間 「総合的な学習」発表会

竜丘小学校では、去る二月二十五日に、「総合的な学習」の発表会を行いました。会場となった公民館大ホールには、児童三百名と父兄を含む地区民八十余名が集まりました。

児童、生徒の学力低下が危惧される中で、「総合的な学習」の必要性を疑問視する声もありますが、教科書で学ぶことのない貴重な時間と位置づけ、工夫をこらした学習をすすめていくことは素晴らしいことです。



農業体験を発表する6年1組

「馬背塚古墳」周辺を整備

去る二月二十八日に、地区住民約五十名が参加し、「馬背塚古墳」の整備作業が行われました。

これは、年間を通じて多くの人が訪れる古墳周辺を整備することにより、見学者の便宜を図ろうと、管理者の市教委と地元が協力して行いました。

「古墳を考えた会」は、古墳マップ作成、発掘作業の体験学習が様々な活動をしてきた実績もありました。

竜丘地区には、郡内でも最多とされる百四十余の古墳があったといわれています。昭和六十一年頃、公民館活動「地域づくり学習会」の中で注目され、平成元年



広々とした馬背塚古墳前



文化祭の分館展示コーナー

「古墳を考えた会」の会長をつとめる下平隆司さんは「周辺の古墳群も含め、一帯を古墳公園にして、市民が歴史を学んだり、交流や健康を促進する拠点としたら」と話してくれました。皆さんも地域の財産である古墳に関心をもち、機会があれば積極的に足を運んでみましょう。

西村 英和

本年度の体育事業も多く皆さんのご参加と、ご協力を頂き無事に終了することが出来ました。例年実施してきた綱引き大会、ソフトバレーボール大会などに加えてドッチボール大会を行いました。分館代表チームの皆さんには新しく導入したドッチボール大会も楽しんで頂きたいです。



運動会の満水リレー

駄科チーム見事準優勝 Cブロック冬季体育大会

去る二月二十二日に、Cブロック公民館冬季体育大会が鼎体育館で行われました。今年度「二回目となるドッチボール大会」で、各公民館から代表二チームが出場、十チームが二リーグに分かれて対戦しました。竜丘公民館からは、一月二十五日に行われた竜丘ドッチボール大会で優勝した、駄科分館のA・B二チームが出場しました。



試合で内野に九人が残る